

コダーイ・コンセプトに基づく 音楽非専攻学生のためのアカペラ合唱の教育実践

尾見 敦子*

Educational Practice of the A Cappella Chorus for Music Non-Majoring Students Based on Kodály Concept

Atsuko OMI

要 旨

本稿は2007年4月から2012年10月まで、本学の学生とともに創った、アカペラ合唱の活動の実践報告である。*La musica*の活動は、ハンガリーの作曲家・民族音楽学者・音楽教育家、コダーイ・ゾルターン（Kodály Zoltán 1882-1967）が提唱した理念（コダーイ・コンセプト）に学んでいる。コダーイ・コンセプトは*La musica*の歩みを進める羅針盤であった。コダーイ・コンセプトのもっとも重要なキーワードは「歌、ハンガリーの民謡、移動ド」である。合唱団を軌道に乗せ、歩みを続けていくために、レパートリーの開拓、発表の場の開拓と定型化、プログラムのコンセプトをもつことに心がけた。伝承的民謡を自らの芸術創造のもととしたコダーイやバルトークの芸術作品は*La musica*のレパートリーの一翼を形成している。また、日本の民族的伝承が洗練された音楽世界をレパートリーのもう一つの柱としてきた。6年間に開拓したレパートリーを「クリスマス選集」「わらべうた選集」「ハンガリー選集」「愛唱歌選集」に分類し、可能な限りの演奏のデータを付け、選集CDとしてまとめ、本稿の付属資料とする。今後、これらの「選集」シリーズを今後、教員養成や一般教育の音楽授業に活かしていきたい。

キーワード：アカペラ、合唱、コダーイ・コンセプト

*教授 音楽教育学

尾見 敦子

はじめに

本稿は2007年4月から2012年10月まで、本学の学生とともに創った、アカペラ合唱の活動をふりかえるものである¹⁾。ハンガリーでの1年間の在外研修から戻って、私はすぐ、アカペラサークル *La musica*²⁾ の活動を始めた。サークルの母体はすでにあつた。2005年の12月、寮生を中心とした文化サークルを合唱でやりたいので顧問になってほしいという相談を受けた。寮生の一人が、私の呼びかけで2か月半、活動した「期間限定でクリスマスのアカペラ合唱を歌う会」のメンバーであつた。2005年12月、メンバーだけで学内のもっとも響きのよいエントランスホールでアカペラの響きを堪能し、この会は解散した。そして1年3か月後、今度はサークルとして本学でアカペラ合唱の合唱活動が始まつた。

ハンガリーは学校の音楽教育の基本が合唱である。そして、合唱のほとんどが無伴奏、つまりアカペラである。私が研修を行った教員養成大学で、小学校・幼稚園教諭養成課程の学生対象の「合唱」の授業があり、30人ほどの女声合唱のクラスとともに歌つた。本番は、12月の日曜日、ブダの丘の王宮の中央にある国立美術館で、合唱団は大きな絵画を背景にして歌い、聴衆は階段に座つて聴くというものだつた。美術館の音響は格別だつた。芸術的な環境で芸術作品を演奏発表するという豊かな経験は教員になる学生たちにとって大変意義深いものである。

La musica は、部員の減少によって6年間の活動を終えた。蓄積してきたレポトリーを整理すると、それらは一般教育、教員養成教育の糧として余りあるものであり、活動の密度の濃さを改めて感じている。本稿は音楽教育の第一次実践報告である。レポトリーの選択理由や、演奏を通して感得した作品の芸術的価値についての考察、アカペラの教授法については稿を改めたい。

I. *La musica* の羅針盤としてのコダーイ・コンセプト

ハンガリーの音楽教育は、作曲家・民族音楽学者・音楽教育家、コダーイ・ゾルターン (Kodály Zoltán 1882–1967) が提唱した理念 (コダーイ・コンセプト) に基づいている。コダーイ・コンセプトのもっとも重要なキーワードは「歌、ハンガリーの民謡、移動ド」である (パヨル・マルタ 2009)。

合唱指揮者という立場になつただちに、私は「移動ド」の真価を確信した。「移動ド」は、音 (の絶対的高さ) ではなく音楽 (音と音の関係が生み出す音楽的な意味) を教えるための、

強力なツールである（尾見 2009）。「移動ド」で楽譜から歌うと、臨時記号が星のようについているバルトークの現代的な作品（後述の『児童と女声のための合唱曲集』所収の作品）であっても、バルトークの芸術音楽の世界への扉を学生が自分で開けることができる。「移動ド」は西洋音楽の語法で楽譜に書かれた音楽を読み解くための、優しく賢い「鍵」である。コダーイは「移動ドは、ほかのどの方法よりも、子どもたちがより速く楽譜から歌うことを習得することができる秘密の方法である」（Herboly 2002, p.27）と言っているが、まさにその通りであった。

メンバーの音楽学習歴を尋ねると、高校までに合唱部、吹奏楽部を経験した学生はわずかで、楽器の経験はなく、音符も読めないけれど歌が好き、など音楽学習歴はさまざまである。楽譜が読めずにバルトークの作品を弾くことは不可能であるが、歌うことはできる。コダーイはこう述べている（中川 1980, p.150）。「楽器は少数の人たちにだけ有用であるが、人間の声は楽器の中で最良のものであり、だれにでも自由で、受け入れられるものが、一般の音楽文化の土壌を肥やすことができる。」「音楽はエリートの娯楽ではなく、教養ある人々がすべて公的な財産にしていくべき、精神的な力の根源である。」「音楽は少数の人たちの独占的財産であってはならず、すべての人のものにすべきである。」歌を通して古今の音楽作品の傑作に触れ、そこで与えられる音楽の喜びが人に「精神的な力」を与える。「歌」がコダーイ・コンセプトのキーワードであるゆえんである。

ハンガリーの音楽教育は伝承の遊び歌や民謡から始まる。なぜだろうか。コダーイはこう述べる（中川 p.154.）。

どんなにすぐれた人の創造でも、伝統に代わることはできない。民謡を創ることは、諺を創ると同じくらいできないことである。諺が人の知恵と、長い間の観察を簡約したものであるように、伝承的民謡は時代の感情が洗練されて、形式の中で完全に永遠の命が生きている。古代の音楽伝統が湧き出た音楽のみが、人々に語り掛けることができる。

この考えに従ってコダーイやバルトークは、伝承的民謡を自らの芸術創造のもととした。コダーイは民謡の旋律（単旋律）を保ったまま、新たな多声による合唱芸術を次々と生み出した。バルトークは民謡の歌詞をもとに、バルトークの独自の音楽世界を生み出した。

La musica の活動を始めるにあたって、民謡を基に異なる方向性をもった、ハンガリーを代表する二人の作曲家の芸術作品にぜひ取り組みたいと考えた。また、なにより、日本の民族的伝承が洗練された音楽世界をレパートリーのもう一つの柱としたいと考えた。このように、「歌、民謡、移動ド」をキーワードとするコダーイ・コンセプトは合唱団の歩みを進める羅針盤であった。

II. *La musica* の6年間の歩み

合唱団を軌道に乗せ、歩みを続けていくために3つのことを心がけた。それは、レパートリーの開拓、発表の場の開拓と定型化、プログラムのコンセプトをもつことである。6年間でふりかえると、2007年度は草創期、2008年度、2009年度は発展期、それ以降は継続期であったと言える。表1に6年間の活動とメンバーの人数をまとめた。6年間をとおして、常に恒常的なメンバーの確保が課題であった。学生は就職活動に備えるために、3年次の学園祭（10月）での演奏発表を最後に引退する。そのため、学生の活動期間は最長で2年半である。新入生は入学後2か月足らずで千葉県合唱祭の本番を迎える。この山を越えると合唱団としてまとめ、これを土台にレパートリーを拡大し、学園祭をめざす。学園祭が終わると3年生が引退し、2年生と1年生だけで我孫子市合唱祭（11月23日）に立ち向かう。つまり、学園祭直後に合唱団の「新学期」が始まる。クリスマスコンサートは目の前である。春休みには力をつけて新入生を迎えなければならない。この定例化した「発表の機会」こそが学生を高みへと引き上げたと言える。本番の設定は重要である。

初年度（2007年度）の発表の場は学園祭とクリスマスコンサートであった（表1）。地域の教会でのクリスマスコンサート（写真1）を企画することで、1年足らずの活動期間でサークルの礎を築いてくれた一期生と、クリスマスのレパートリーを分かち合い、地域の方々にも女子学生のアカペラ合唱を聴いていただけたことが喜ばしかった。これがご縁となり、翌年、教会から招待演奏の機会をいただいた。

表1 6年間の活動とメンバーの人数

		11月	12月		1-3月	4-5月	6月	7-9月	10月
		我孫子市合唱祭	クリスマスコンサート			新歓コンサート	千葉県合唱祭		学園祭コンサート
1年目	2006年			2007年	—	—	—	8月～9月中旬、夏休みの練習	10人
2年目	2007年	—	9人	2008年	試験期間終了後、春休みの練習	6人	8人		11人
3年目	2008年	—	9人	2009年		8人	11人		11人
4年目	2009年	7人	6人	2010年		6人	9人		10人
5年目	2010年	6人	6人	2011年		(注1)	8人		6人
6年目	2011年	3人	5人(注2)	2012年		3人	3人		3人

(注1) 東日本大震災以降、5月連休明けまで活動休止

(注2) 3年生の先輩が賛助出演

2年目(2008年度)の最初の活動は、本学新校舎の竣工式における演奏(表2, ※3)であった。しかし当日は先輩の賛助出演を得られるものの、演奏の中心メンバーは1, 2年生が4人、つまり一人1パートに等しい。そこで、学校行事での演奏の前に、春休みに4人でのレパートリーを発表する機会を設けて、4人のアンサンブルの経験を積むことにした。それがスプリングコンサートである(表2, ※2)。2年目の大きなステップは、6月の千葉県合唱祭への参加であった。4人の新メンバーを得て8人で、コダーイとバルトークの3作品を演奏した(表3)。1800席というホールの大きさに圧倒されつつも、ホールの音響のよさと、聴衆の暖かさに大いに助けられた。聴衆とともに当日、演奏する、県内の高校・社会人の合唱団である。

3年目から我孫子市合唱祭に参加し、合唱発表にふさわしい演奏発表の機会を増やし、定例化していった(表2)。発表の場の開拓と定型化によって、活動に目標ができ、学生の自発性と音楽性を伸ばすことができたと思う。



写真1 2007年のCD
〔上：学園祭(10月), 下：クリスマスコンサート(12月)〕

表2 発表の場の拡大

	2007年度	2008年度	2009年度	2010年度	2011年度	2012年度
学園祭	●	●	●	●	●	●
クリスマスコンサート	●	●	●	●	(※1)	—
千葉県合唱祭	—	●	●	●	●	●
我孫子市合唱祭	—	—	●	●	●	—
その他	—	(※2)	(※4)	(※5)	—	—
		(※3)		(※6)		

(※1) クリスマスイルミネーション点灯式での演奏(2011年12月, 我孫子駅南口駅前特設ステージ)

(※2) スプリングコンサート(2008年3月, 天王台教会)

(※3) 本学新校舎竣工式での演奏(2008年4月, 本学14号館大教室)

(※4) 我孫子げんきフェスタでの演奏(2009年6月, 我孫子市湖北地区公民館ホール)

(※5) 我孫子ミニコンサート出演(2010年6月, 我孫子市湖北地区公民館ホール)

(※6) 夏祭りコンサート出演(2011年12月, 我孫子駅南口駅前特設ステージ)

尾見 敦子

表3 千葉県合唱祭(6月)のプログラム構成(＃1～3は演奏順)

	2008年	2009年	2010年	2011年	2012年
日時・会場	6月1日(日) 千葉県文化会館大ホール	6月7日(日) 船橋市民文化ホール	6月6日(日) 千葉県文化会館大ホール	6月12日(日) 千葉県文化会館大ホール	6月17日(日) 市川市文化会館大ホール
Kodály Zoltán (コダーイ・ゾルターン) 『児童のための合唱曲集』より	#3. Nagyszalontaköszöntő (ナジサロントク地方の命名日の 祝い歌：民謡に基づく)	#3. Nagyszalontaköszöntő (ナジサロントク地方の命名日の 祝い歌：民謡に基づく)	#1. Katalinka (てんとう虫： 伝承の子どもの歌に基づく)		#1. A juhász (羊飼いの民謡に基づく)
	#2. Ave Maria (アヴェ・マリア)				
Bartók Béla (バルトック・ベータ) 『児童と女声のための合唱曲集』より (※歌詞はハンガリーの民謡に基づく)	#1. Ne menj el! (行かないで)	#1. Madárdal (鳥の歌) #2. Keserves (悔やみ)	#2. Ciposútes (パン焼き)	#1. Lánystífoló (女の子からかい歌) #2. Elment a madárka (小鳥は行ってしまった)	#3. Ne hagyj int! (ここに置き去りしないで)
	Bárdos Lajos (バルドシユ・ラヨシユ)				#2. Aranyzárnyú angyal (金の翼の天使：フランスの クリスマスキャロルに基づく)
Kocsár Miklós (コチャール・ミクローンシユ)			#3. O vos omnes (おお、すべての人よ)		
	Thomas Morley (トーマス・モーリー)			#3. Now is the Month of Maying (五月の季節がやってきた)	
プログラムに寄せた言葉	私たちの大学は千葉県の北西、我孫子市にあります。2年前から活動を始めたばかりで、このような大きな会場の発表は初めてですが、さよらは楽しんで歌いたいと思います。	昨年引き続き、2度目の参加です。①鳥の歌「おおいで、金の鳥籠を作るから」「いいえ、私は鳥籠には住まない。緑の森に眠り、真珠のような朝露を飲むの」②悔やみ「明けの明星が輝いても私の(恋人)はもう輝かない」	ポップスから宗教曲まで幅広く歌っています。①「トルコが攻めてくる！とんとん出よ、早くお飛び！」(子供の歌に歴史が歌われています) ②動物たちの愉快なパン焼きの歌 ③主教曲 全曲ハンガリーの作曲家の作品です。	合唱祭参加もバルトックも4年目。①エルジュの手鏡が割れたよ。まあ、可哀そう、どうやってお化粧するの？ そばかすが見えちゃう！ ②バラが咲くころに戻る、と残して去った。夏、秋が過ぎ…あなたはもう戻っては来ない。	①「羊飼いはよい仕事！」朗らかな歌。②バルドシユの美しい編曲に魅せられて。③「愛するあなたが去っていく道を、止まらぬ涙で覆い包みます。」言葉と音楽の才上の調和。

(注) モーリー (イギリス) 以外はハンガリーの作曲家。演奏は原語。コダーイ「羊飼いの」とバルトック「行かないで」は二声、他は三声のアカペラ作品。

コダイ・コンセプトに基づく音楽非専攻学生のためのアカペラ合唱の教育実践

レパートリーの拡大は急ピッチであった。1年目の学園祭の曲目がすべて新しい(表4)。クリスマスコンサートの曲目もまた、すべてが新しい。図1は2年目(2008年度)のコンサートと演奏曲の一覧である³⁾。2年目は草創期から一気に発展期に入った感がある。前述したように新入生を得て、6月1日に千葉県合唱祭への初参加を果たした。

千葉県合唱祭のプログラム構成は、初年度から一環して、アカペラ合唱のために書かれたコダイとバルトークの作品が中心で、原語で演奏した(表3)。言葉と音楽が分かちがたく結びついているからである。千葉県合唱祭では互いに聴きあうことを大切にし、講評カードを書いて渡す。8人で初参加の*La musica*の演奏に対する次のような感想を、県内の高校生や大学生・社会人の合唱団の方々からいただいた。

表4 学園祭コンサート(10月)のプログラム構成

	2007年	2008年	2009年	2010年	2011年	2012年
クラシック	<ul style="list-style-type: none"> ● Now is the month of Maying ● ナジサロンタ地方の命名日の祝い歌 ● タベの歌 	【千葉県合唱祭(6月)の演奏曲】 <ul style="list-style-type: none"> ● Ave, maris stella ● もしも私が小鳥ならば 	【千葉県合唱祭(6月)の演奏曲】 <ul style="list-style-type: none"> ● Salve Regina ⇒もしも私が小鳥ならば 	【千葉県合唱祭(6月)の演奏曲】 <ul style="list-style-type: none"> ⇒鳥の歌【千葉県合唱祭(2009)の演奏曲】 	【千葉県合唱祭(6月)の演奏曲】 <ul style="list-style-type: none"> ⇒ナジサロンタ地方の命名日の祝い歌 ⇒ Ave, maris stella ⇒もしも私が小鳥ならば 	【千葉県合唱祭(6月)の演奏曲】 <ul style="list-style-type: none"> ⇒ Now is the month of Maying
わらべうた	<ul style="list-style-type: none"> ● 「日本のわらべうた」(I) 	⇒「日本のわらべうた」(I)	●ほたるこい	⇒ほたるこい ⇒あんたがたごさ ●でんでりりゅうば	●「日本のわらべうた」(II)	
日本の歌		●赤とんぼ	⇒赤とんぼ ●ていんさぐぬ花	●夏の思い出 ●小さい秋みつけた		●夕焼小焼 ⇒小さい秋みつけた
ポップス		<ul style="list-style-type: none"> ●いつも何度でも ●ジッパ・ディー・ダー ●美女と野獣 ●ホール・ニューワールド 	<ul style="list-style-type: none"> ●テルーの歌 ●もののけ姫 	<ul style="list-style-type: none"> ●ありがとう ●ドレミの歌 ⇒いつも何度でも	⇒世界に一つだけの花 ⇒ジッパ・ディー・ダー ⇒ホール・ニューワールド ⇒もののけ姫	<ul style="list-style-type: none"> ●涙そうそう ●ディズニードレー
その他			● Hail Holy Queen (ピアノ伴奏つき)			

【凡例】 ●は新曲, ⇒は再演

I. スプリングコンサートより～4人からの出発～◆2008年3月28日(金)天王台教会

1. Tavaszi szél 春風 (ハンガリー民謡) 〈歌〉
2. Tavaszi szél 春風 (ハンガリー民謡に基づく) 〈ピアノ〉 Weiner Léo ヴァイネル・レーオ作曲
3. 花 (滝廉太郎作曲・武島羽衣作詞・信長貴富編曲) [2:17]

II. 新校舎竣工式コンサートより～学校行事に参加して～◆2008年4月12日(金)14号館

4. 感謝の歌 (創立者、川村文子作詞・作曲) [1:10]
5. 学園歌 (加藤昌子作詞・成田為三作曲) [2:11]
6. 花 (滝廉太郎作曲・武島羽衣作詞・信長貴富編曲) [2:18]
7. いつも何度でも (覚和歌子作詞・木村 弓作曲) [2:10]

III. 第1回ランチタイムコンサートより～新入生を歓迎して～◆2008年4月12日(金)13号館

8. 1 + 1 = 1 (ロバの音楽座より) [1:43]

IV. 第63回千葉県合唱祭(初参加)～新しいメンバーとともに～◆2008年6月1日(日)千葉県文化会館 大ホール

9. Bartók Béla バルトーク・ベーラ: Ne menj el! 行かないで [1:25]
10. Kodály Zoltán コダーイ・ゾルターン: Ave Maria アヴェ・マリア [1:50]
11. Kodály Zoltán: Nagyszalontai Köszöntő ナジサロンタ地方の命名日の祝歌 [1:00]

V. 学園祭コンサートより◆2008年10月19日(日)・13号館

12. いつも何度でも (覚和歌子作詞・木村 弓作曲) [3:31]
13. ジッパ・ディー・ドゥー・ダー Zip-A-Dee-Dah (Ray Gilbert 作曲) [1:13]
14. Beauty and the Beast 美女と野獣 (Alan Menken 作曲・Howard Ashman 作詞) [2:33]
15. A Whole New World ホール・ニューワールド (Alan Menken 作曲・Tim Rice 作詞) [2:50]
16. 赤とんぼ (山田耕筰作曲・三木露風作詞) [0:54]
17. 日本のわらべうた [8:25]
(ねんねころろこ・おつきさまえらいの・ゆうやけこやけ・くもはあっぱい・山かじやける・からすかあかあ・かりかりわたれ・あめこんこん・ずくぼんじょ・いちべえさんが・でんでらりゅうば・じょうりぎ・げっくりかっくりにっけんじょ、にけんじょ・あんたがたどこさ)
18. Bartók Béla バルトーク・ベーラ: Ne menj el! 行かないで [1:32]
19. Bárdos Lajos バールドシユ・ラヨシユ: Ave, maris stella めでたし海の星 [2:20]
20. Kodály Zoltán コダーイ・ゾルターン: Ave Maria アヴェ・マリア [1:50]
21. Kodály Zoltán: Nagyszalontai Köszöntő ナジサロンタ地方の命名日の祝歌 [1:09]

**VI. クリスマスコンサートの曲目より ◆2008年12月12日(金)13号館 ランチタイムクリスマスコンサート
◆2008年12月13日(土)天王台教会主催 地域コンサート**

22. We Wish You a Merry Christmas (イギリス民謡) [0:54] 25もろびとこぞりて (讃美歌) [0:54]
23. 荒野のはてに (讃美歌) [0:55]
24. きよしこの夜 (讃美歌) [1:51]
25. Otto Ficscher オットー・フィッシャー: Wenn ich ein Glöcklein wär' もしも私が小さな鐘ならば [2:47]
26. Bárdos Lajos バールドシユ・ラヨシユ: Ave, maris stella めでたし海の星 [2:21]
27. Kodály Zoltán コダーイ・ゾルターン: Ave Maria アヴェ・マリア [1:45]
28. Kodály Zoltán: Nagyszalontai Köszöntő ナジサロンタ地方の命名日の祝歌 [1:00]
29. Esterházy Pál エステルハージ・パール: Veni creator spiritus 来たれ、創り主なる聖霊よ [1:00]
30. W.A. Mozart モーツァルト: Ave verum corpus アヴェ・ヴェルム・コルプス [1:00]

図1 2008年のコンサートと演奏曲(抄) [2008年のCDジャケットより]

「二千名近く入る大ホールで堂々と立派でした。集中力のいるバルトークの曲、音色豊かなコダーイの2曲、しかも3曲ともタイプの異なる曲を素敵に歌っています。ナジサロンタ…は一番歌い慣れていますね。転調の部分の声がきれい！」(社会人合唱団)「優しく柔らかい響きが素敵でした。選曲がぴったりだなと思いました。」(高校生)「とてもまっすぐで素直な歌声だと思いました。ハンガリー語の発音もよく研究していたと思います」(社会人合唱団)「同じアカペラをする団体として、難しいのに2年目とは思えないとてもきれいな声にそろって上手でした」(同前)「心が洗われる様でした。若いということはうらやましい限りです。声が伸びやかでした。」(同前)

1800人収容の大ホールは8人には大きすぎたが、音響がよく、印象深いステージであった。図1には記されていないが、9月には我孫子市の文化祭「あびこ楽校」に参加し、市の生涯学習センター(アビスタ)においてコーラス・ワークショップを行った(写真2)。2年目は活動が飛躍的に拡大・発展した。

翌年からも毎年、6月に合唱祭に参加し、そのあと、キャンパス内でランチタイムコンサートとして、合唱祭で歌った曲を演奏するというのが恒例となった。2年目からは代々の広報担当部員がポスター作りに個性を発揮した(図3、図4)。

学園祭は一年間の総まとめである。2年目からは、学生の希望で、クラシック、わらべうた、日本の歌、ポップスの4本立ての路線となり、定型化した(表4)。千葉県合唱祭に向けて短期間に背伸びして開拓したレパートリーを、学園祭に向けてゆっくりと深めるというサイクルができた。繰り返し歌った芸術作品は心の栄養となって吸収されていく。

3年目(2009年度)から地元の我孫子合唱祭での演奏発表が加わった。前年度の天王台教会での地域公演がきっかけで我孫子市合唱連盟への参加を勧められたことによる。学園祭で3年生が引退し、質・量ともに合唱団の体力がない時期にステージに立つのは大変であるが、学生たちは7人でやってのけた(写真3)。初参加のプログラムが意欲的である(表5)。8分間のプログ



写真2 2008年のCD
〔上：学園祭(10月)、下：「あびこ楽校」にコーラス・ワークショップで参加(9月)〕

表5 我孫子市合唱祭(6月)のプログラム構成(＃1～5は演奏順)

		2009年	2010年	2011年
日時・会場	11月23日(日) けやきプラザ ふれあいホール	11月24日(日) けやきプラザ ふれあいホール	11月25日(日) けやきプラザ ふれあいホール	
日本の歌	＃1. 赤とんぼ 三木露風 作詞, 山田耕筰 作曲, 飯島英詞 編曲	＃3. あんたがたどこどこ (本間雅夫 作曲)	＃1. 数え歌・遊び歌より ①いちべえさんが ②てんやのおもち(*) (☆) ＃2. 四季の歌・自然呼びかけ歌より ①ずくぼんじよ ②くわいがめだした ③ほたるこい (＃) ④うさぎうさぎ ⑤かりかりわたれ ⑥あめこんこん ＃3. 子守唄より ①ねんねこころこ(*) ②ねろじやエー ＃4. ふたたび、遊び歌(まりつき歌) ①あんたがたどこどこ 作曲: 本間雅夫, (*) 本澤陽一 (＃) 3声のカノンで (☆) 打楽器を入れる	
日本の伝承の わらべうたに 基づく作品		＃4. ほたるこい (小倉明 作曲)		
		＃5. でんでらりゅうば (本澤陽一 作曲)		
ハンガリーの 作曲家の作品	＃2. Salve Regina (マリア賛歌) Kocsár Miklós 作曲	＃1. Karalinka (てんとう虫) コダーイ・ゾルターン 作曲 (歌詞はわらべうた)	＃2. Ciposütés (パン焼き) バルトーク・ベーラ 作曲 (歌詞は民謡)	
その他	＃3. Hail Holy Queen 歌詞・曲: トラディショナル, Manro Shaimau 編曲			
プログラムに 寄せた言葉	川村学園女子大学アカペラ研究会 La musica は、学内定期ランチタイムコンサートを主に、6月の千葉県合唱祭や我孫子げんきフェスタなどで演奏しています。初参加の今回は、日本人の心「赤とんぼ」ハンガリーの作曲家、コチャール・ミクロシエによる「聖母マリア賛歌」[天使にラブソング]から「Hail Holy Queen」を歌います。アカペラの響きをどうぞお楽しみください(最後の曲は私たちにとって初めてのピアノ伴奏付きの曲です)。	昨年に続き、2回目の参加です。学内での学園祭やランチタイムコンサートのほか、毎年6月に千葉県合唱祭で演奏発表を行っています。今年には湖北ミニコンサートにも初参加。8月には蓼科の合宿と、我孫子かつば祭りでの初の屋外演奏。きょうは、ハンガリーと日本の作品を歌います。「パン焼き」は民謡の歌詞に作曲したもので、添い例外は伝承のわらべうたにもとづく合唱作品です。アカペラの響きをどうぞお楽しみください。	被災地に響いた「ふるさと」の歌声、鎮魂の祈りが捧げられた伝統の民俗芸能に、人々を結びつけ、明日を生かす力を与える音楽の力を教えられました。活動再開は連休明けながら、千葉県合唱祭に参加。3年目となる今日の発表に、わらべうたのよる小さな合唱曲を集めました。アレンジは特上です。遊び歌・自然呼びかけ歌に光る子どもたちのユエーモアやセックスと、心に染みる子守唄の旋律からあふれる慈しみの心を、感謝をこめて歌います。	



写真3 初めての我孫子市合唱祭（2009年11月）



写真4 クリスマスコンサートの日に
（2010年12月）

ラムを構成するにあたっては、地元の聴衆に合唱団の響きやレパートリーの特徴を伝えられるよう、学生とよく相談して決める。2回目の参加（2010年）は6人で多彩なプログラムを組んだ。ハンガリーの作曲家のアカペラ作品と、対としての日本の伝承わらべうた、というプログラムをこのような短期間に達成できたことは喜ばしかった。1パート2名で3パートというのは、のびのび演奏できる限界値である。

クリスマスコンサート（写真4）が過ぎ、翌春の新メンバーが待たれる春休みの3月11日、東日本大震災に見舞われた。卒業式は簡略化、入学式は行われなかった。5月の連休明けから課外活動が再開し、千葉県合唱祭も開催され、8人で参加することができた。受け取った講評カードの中に応援メッセージがあって励まされた。「8人でア・カペラ、難しいものもあると思いますが、よくきき合う事やテーマを決めて活動されている様子で感心しました。これから楽しく続けてください。」（社会人合唱団）

最後の一年間は、1パート1人という、3部合唱が成り立つ限界の人数であったが、声を合わせる喜びも大きかった。我孫子市合唱祭の3人のステージをどう組むか考えた末、わらべうたをメドレーにした（表5）。日本語のおもしろさを引き立てる木魚や拍子木の音に会場がなごみ、笑い声がもれた。3人の演奏であるのに会場とコミュニケーションしているという実感を背中を感じる事ができた。この日を最後に一人が退部し、授業が終了し、2月になって新入部員に恵まれた。新入部員から「とても楽しくて、なんで1年の時から入っていなかったんだろう」という感想を後で聞き、高校までの学校生活において、吹奏楽と異なり、見聞きすることの少ないアカペラ合唱への興味を喚起する難しさを知った。新入部員勧誘の手も緩めなかったが（図2）、千葉県合唱祭は参加団体の中で最少人数であった。最後まであきらめず演奏に集中した結果、「少数でもステージを目指して頑張る姿勢は素晴らしいと思います。お

一人お一人が懸命に歌われているのが素晴らしかったです」という講評カードをいただいた。3人で挑んだ最後の学園祭での発表のために、新曲にも挑んだ。満足のいかなかった6月の合唱祭の曲目をやり直して磨き、思い出に残る演奏となった(写真5)。ポスター制作の余裕がない部員たちのために、先輩がポスターをプレゼントしてくれた(図4)。すべてを出し切った、悔いのないコンサートとなり、卒業した先輩たちに祝福され(写真6)笑顔で活動の幕を閉じた。

III. *La musica* の6年間で遺したもの

La musica が活動を終えるにあたって、卒業生・在学生たちがそれぞれの思いを語ってくれた。4人の声を記しておきたい。

①「1年だけお仲間でしたが、とっても楽しかった」と、一番にメールをくれた卒業生
練習が終わって駅に向かう夜道、練習した歌を皆で何気なく口ずさんで、それがきれいにハモった時のことを今も覚えています。アカペラの醍醐味は、仲間同士が集まって繋がっているということがすぐわかること、きれいにハモると鳥肌が立つほど感じること。*La musica* はハンガリーの曲がメインだったこともあって、他のアカペラグループとはひと味もふた味も違う個性があり、私はすごく好きだったので、*La musica* が休止してしまうのはかなり悲しいし、淋しいです。

② 草創期・発展期を過ごした卒業生

私にとって *La musica* は大学生活、そして人生の中の大切な、大切な思い出であり、宝です。一番楽しみにしていたのはクリスマスコンサートです。クリスマスコンサートで歌った曲は全部大好きでした。なかでも「もしも小鳥ならば」が一番好きでした。ソプラノのソロを3号館で歌ったとき、震えるほどの感動と気持ちよさを感じたのを今でも覚えています。OBで集まった際、クリスマスの歌を歌いたいです。ナジサンロンタも大好きでした。ぜひ多くの歌を3号館でまた歌いたいです。また集まって歌いたい!! これが全てです。また、そう思わせてくれる *La musica* に本当に感謝の気持ちでいっぱいです。

③ 一人1パート時代の先頭を切って頑張った卒業生

入部した当初は、ただ歌うことが好きだけで楽譜もまともに読めないような初心者でしたが、自分でも実感ができるくらいには上達できたのかなと思います。自分のパートだけで精一杯だったのが周りのパートも聞けるようになり、楽譜を見て音叉で音が取れるようになり、1人でアルトを任せてもらえるようになり……と、上手く歌えるようになるのが楽しかったで



図2 部員勧誘のカード (2012年春)



図3 ランチタイムコンサートのポスター (2010年7月)



図4 先輩から贈られた学園祭ポスター (2012年)



写真5 最終コンサートでコダイ「羊飼い」を歌う（2012年10月）



写真6 最終コンサートにOBとともに（2012年10月）

す。曲もたくさん覚えられました。クラシック音楽に縁の無かったため、覚える1曲1曲が新鮮で勉強になりました。合唱祭で歌った曲、クリスマスの曲、学園祭での曲、どれもが思い出深いです。時に悩んだり、躓いたりしながらも歌いたい一心で活動していたような気がします。好きな曲は挙げたらキリがないですが一番思い出深いのは、「ナジサロタ地方の命名日の祝歌」でしょうか。たくさん練習して成功した時の喜びが大きかったのもこの曲でした。でも、他にもたくさん素敵な曲があって、いろんなステージで歌えてよかったです。先輩方、同じ学年の2人、後輩のみんなにいつも助けてもらいながら成長できていたら嬉しいです。サークルに入っていたことで、忙しくも充実した大学生生活が送れたと思います。ありがとうございました!!

④ ファイナルコンサートをともに創った学生

合唱を通して「美術と合唱の芸術性の違い」を感じました。絵を描くときはひとりで「ああしよう」「こうしよう」と考えるけれども、合唱は、ひとりよがりの表現だけでも、誰か一人だけがとてつもなく上手いのも、上手くないのだと思いました。メンバーや先生と同じ時間を過ごしながら、よりよいものを作ろうと四苦八苦することが全て、良い経験で勉強だったと感じます。先生や皆にサポートしていただいたのに結果に繋がらず、ラムジカがなくなってしまうことはとても残念で悔しいです。

合唱団にとってレパートリーは「宝」であり「表現そのもの」でもある。6年間に開拓したレパートリーを演奏の機会・年度とともに、表6～9に分類して示した。表中の●印を付した曲目は、演奏をCDに収録し、「La musica レパートリー選集」として本稿の付属資料とした。「クリスマス選集」（表6）は教員養成や一般教育の音楽授業に活かし始めている。比較的易しいものは歌い、その他は歌を通じた鑑賞に役立てることができると思う。すべて音源が先輩の

コダーイ・コンセプトに基づく音楽非専攻学生のためのアカペラ合唱の教育実践

表6 クリスマス選集

	曲名	作曲者	編成	原語	難易度	収録
1	We wish you a Merry Christmas	イギリス民謡	女声3部	英語	A	●
2	もろびとこぞりて	讃美歌	女声3部		A	●
3	あらののはてに	讃美歌	女声3部		A	●
4	きよしこの夜	グルーバー	女声3部		A	●
5	ひいらぎかざろう	ウェールズ民謡	女声3部		A	
6	Hark! The herald angels sing	F. Mendelssohn	女声4部	英語	C	●
7	Wenn ich ein Glöcklein wär'	Otto Fischer	3声とソロ	ドイツ語	B	●
8	Aranyszárnyú angyal	Bárdos Lajos	女声3部	ハンガリー語	B	●
9	Dona nobis pacem	不詳	カノン	ラテン語	A	●
10	Ave Maria	Kodály Zoltán	女声3部	ラテン語	B	●
11	Ave maris stella (Bárdos)	Bárdos Lajos	女声3部	ラテン語	B	●
12	O vos omnes	Kocsár Miklós	女声3部	ラテン語	B	●
13	Salve Regina	Kocsár Miklós	女声3部	ラテン語	C	●
14	Veni Creator Spiritus	Esterházy Pál	混声4部	ラテン語	A	●
15	Jubilate Deo	Halmos László	混声3部	ラテン語	B	●
16	Ave Maria (Orbán)	Orbán Gyorgy	混声4部	ラテン語	B	●

(注) A～C (易～難), ●録音を選集CDに収録

表7 わらべうた選集

	曲名	作曲者等	編成	難易度	収録	学園祭	我孫子市合唱祭	授業で演奏発表
1	いちべえさんが	本間雅夫	2声	A	●	2007/2008	2010/2011	
2	あんたがたどこさ	本間雅夫	2声	B	●	2007/2008	2010/2011	
3	ほたるこい	小倉 朗	3声	B	●	2009/2010		2012
4	でんでらりゅうば	本澤陽一	3声	C		2011	2011	
5	ねんねこころこ	本澤陽一	2声	B	●	2007/2008	2011	
6	いちもんめのいすけさん	本永聡行	3声	B	●			2009
7	わらべうたセレクションⅠ 数え歌・遊び歌・四季の歌 自然呼びかけ歌・子守歌 ことば遊び (10曲)	本澤陽一・本間雅夫 中川弘一郎・セーニ・ エルジェーベト (構成・ 編曲: 尾見敦子)	2声	A/B	●	2007/2008		
8	わらべうたセレクションⅡ 四季折々の歌 (10曲) 数え歌 (10曲) ことば遊び (10曲)	構成・編曲: 尾見敦子	2声	A	●			2009
9	わらべうたセレクションⅢ 数え歌・遊び歌・四季の歌 自然呼びかけ歌・子守歌	本間雅夫・本澤陽一 (構成・編曲: 尾見敦子)	2声	A/C		2011	2011	

(注) A～C (易～難), (注) ●録音を選集CDに収録

尾見 敦子

表8 ハンガリー選集

	作曲者	曲名	曲名(日本語訳)	備考	収録	千葉県 合唱祭	学園祭	クリスマス コンサート	我孫子市 合唱祭
1	Kodály	Nagyszalontai köszöntő	ナジサロンタ地方の 命名日の祝い歌	3声	●	2008/2009	2008/2009	2008	
2		Ave Maria	アヴェ・マリア	3声	●	2008	2008	2007	
3		Katalinka	てんとう虫	3声	●	2010	2010		
4		Juhász	羊飼い	2声		2012	2012		
5		Esti dal	夕べの歌	3声			2007		
6	Bartók	Ne menj el!	行かないで!	2声	●	2008	2008		
7		Madárdal	鳥の歌	3声	●	2009	2010		
8		Keserves	悔やみ	3声	●	2009			
9		Cipósütés	パン焼き	2声	●	2010	2010		
10		Lánycsüfő	女の子からかい歌	2声		2011			
11		Elment a madárka	小鳥は行ってしまった	3声		2011			
12		Ne hagy itt!	置き去りにしないで	3声		2012			
13	Bárdos	Ave maris stella	めでたし海の星	3声	●		2008	2008/2009	
14		Aranyszárnyú angyal	金の翼の天使	3声	●	2012	2012	2009	
15	Kocsár	Salve Regina	マリア賛歌	3声	●		2009		2009
16		O vos omnes	おお、すべての人よ	3声	●	2010			
17	Esterházy	Veni Creator Spiritus	来たれ、創り主なる 聖霊よ	混声	●	2009		2008	
18	Halmos	Jubilate Deo	神を歓呼せよ	混声	●	2009			
19	Orbán	Ave Maria	アヴェ・マリア	混声	●	2009			

(注) ●録音を選集CDに収録

演奏であることに親しみが持てるであろう。「わらべうた選集」(表7)は、小学校と初等教育の教員養成の音楽授業で教材化を進めたいジャンルである。「わらべうた選集」と「ハンガリー選集」(表8)は *La musica* のレパートリーの重要な柱であった。これらの作品の芸術性や指導法について、稿をあらためたい。「愛唱歌選集」(表9)は学生が主体で(1を除く)開拓したレパートリーである。音楽非専攻であるが、学生たちのアカペラ合唱の響きはキャンパスを吹き抜ける風のごとくさわやかである。これらの「選集」シリーズを今後、あらたな教育実践に活かしていきたいと思う。

表9 愛唱歌選集

	曲名	作詞者	作曲者	収録
1	Now is the month of Maying		Thomas Morley	●
2	いつも何度でも	覚和歌子	木村 弓	●
3	花 (滝廉太郎)	武鳥羽衣	滝廉太郎	●
4	もののけ姫	宮崎駿	久石 譲	●
5	ジッパ・ディー・ドゥーダ		Ray Gilbert	●
6	美女と野獣	Alan Menken	Howerd Ashman	●
7	A whole new world	Alan Menken	Tim Rice	●
8	Hail Holy Queen	トラディショナル	トラディショナル	●
9	ありがとう (いきものがかり)	水野良樹	いきものがかり	●
10	ドレミの歌	ペギー葉山	Richard Rodgers	●
11	世界に一つだけの花	横原敬之	横原敬之	
12	夕焼小焼	中村雨紅	草川信	
13	ちいさい秋みつけた	サトウハチロー	中田喜直	
14	涙そうそう	森山良子	BIGIN	

(注) ●録音を選集CDに収録

注

- 1) ア・カペラ *a cappella* (イタリア語) とは、楽器伴奏を伴わない合唱をさす。本稿では「アカペラ」と記す。日本語の発音のままである。
- 2) *musica* はイタリア語で「音楽」である。初年度に「Viva la musica」(プレトリウスによる有名なカノン)をサークル・ソングにしていたことからサークルの名前とした。
- 3) *La musica* の活動の初年度から、演奏の記録をCDやDVDに毎年、収録した。図1は、2年目のCDの収録曲のリストである。

引用文献

- 尾見敦子 (2009) 「提言『読譜教育』の4つの視点—ハンガリーの音楽教育に学ぶもの—」『音楽教育実践ジャーナル』 vol.7, no.1, pp.76-86.
- 中川弘一郎編・訳 (1980) 『コダーイ・ゾルターンンの教育思想と実践』全音楽譜出版社
- パヨル・マルタ (2009) 「ハンガリーの音楽教育—コダーイ・コンセプト—」『音楽教育学』 vol.39, No.2, pp.32-36.
- Herboly Kocsár Ildikó (compiled by) (2002) Kodály Zoltán, Music should belong to everyone: 120 quotations from his writings and speeches. Executive Office OKS. Budapest, Hungary.